東京荒川
ロータリークラブ賞

ご先祖様からの命

第一日暮里小学校　三年　藤倉　みゆ

柳田先生こんにちは。とつぜんですが、命ってどこからくるか知っていますか。それからご先祖様は何人いますか。すぐには答えられないでしょう。だってすごくたくさんいるんですからね。

夏休みにいなかに行った時おはかまいりに行きました。おはかにだれがいるんだろうと思い、お父さんに聞きました。すると「ご先祖様がいるんだよ。」と教えてくれました。この本を読むまではあまり考えなかったけど、今回のおはかまいりではご先祖様のことを考えるようになりました。おはかでは、「ご先祖様。お父さんやお母さんまでどんどんつなげてくれてありがとう。わたしを生んでくれてありがとう。ここまでつなげてくれてありがとう。」と心の中で言いました。

わたしに命をくれたのはお父さんとお母さんで、お父さんとお母さんに命をくれたのは、おじいちゃんとおばあちゃんで、そのまたひいおじいちゃんがずっとずっとご先祖様とつながって、たくさんの命になってきたんだなあと思ったからです。

わたしは毎朝仏だんにごあいさつをします。ご先祖様におはようのあいさつをするのです。おばあちゃんはずうっと前からやっていて、いつのまにかわたしもいっしょにやるようになりました。はじめはただ手を合わせるだけだったけど、今はご先祖様を思いながらやっています。おばあちゃんもご先祖様を大切にしてきたことがわかりました。

どんなにたくさんご先祖様がいても、ご先祖様のだれか一人でもいなかったら、わたしにはつながりません。

だからご先祖様ってすごいな。ありがとうって思います。お父さん、お母さん、ありがとうって思います。

柳田先生。だから、はじめのしつ問「命はどこからくるか」の答えは「ご先祖様」です。

わたしもいつか自分がご先祖様になって、命をつなげていくのかなあと思いました。わたしからまたたくさんつながってほしいです。

【柳田邦男さんからのメッセージ】

藤倉さんは、二年前、一年生の時に「だっこのしゅくだい」という、ほんわかと心あたたまる絵本感想文で応募して、みごとに大賞に選ばれました。三年生になって、もう一度チャレンジしてくれて、すごくうれしいです。

前回は、ご両親やおじいちゃん、おばあちゃんのだっこの微妙な違いを教えてくれて、かわいいなと感じていただけに、今回は、いきなりご先祖様という言葉が出てきたので、何だろうとびっくりしました。しかも、私に「ご先祖様は何人いますか」と聞くのですから、ますますびっくりでした。

ご先祖様の絵本を読んだ時には、深くは考えなかったけれど、夏休みにお墓参りに行った時、お墓に誰がいるのかをお父さんに教えてもらって、ご先祖様がたくさんいるのを知ったんですね。不思議に思ったら、何でも大人に聞いてみるって、いいことです。

藤倉さんの気づきで大切なところは、お父さん、お母さんには、それぞれにお父さん、お母さんがいて、そのお父さん、お母さんにもさらにお父さん、お母さんがいて…と、ずーっとご先祖様はつながっていて、その中のだれか一人でも欠けていたら、今の自分にはつながらなかったのだという点です。命というものは、どこかで切れたら、もう終わりになってしまう、命のつながりというのは、とても大切なことなのだ、

ということに気づいたのですね。

おばあちゃんが毎朝仏壇の前でご先祖様におはようのあいさつをするのを見て、藤倉さんも毎朝お参りすると書いてありますが、とても大事な生活習慣だと思います。そして、これまではただ手を合わせるだけだった藤倉さんが、ご先祖様のことを知ってからは、お参りするとき、命をつなげてくれたご先祖様や自分を生んで命をつなげてくれたお父さん、お母さんに、「ありがとう」と感謝の言葉をつぶやくようになったというところは、藤倉さんの素直な心を映し出していて、とても感動しました。

そして、藤倉さん自身が、いつか自分もご先祖様になることを想像して、自分からたくさん命がつながってほしいと思いを広げるところでは、すごく感動しました。小学校三年生で、はやくもやがて自分が年をとってあの世に行き、ご先祖様になるということまで想像をめぐらす藤倉さんの人生は、きっと心の穏やかなすばらしいものになるでしょう！